

# MACCコーディネータ「TOMMY(トミー)の部屋」 VOL.1

MACCコーディネータの「トミー」こと豊泉光男です。

なんで、「トミー」なんや？ それは、実はですね。

私の名前「TOYOIZUMI MITSUO」は、海外出張にいて、初めて名前を読んでもらうと必ず言って良いほど、まともに読んでいただけません。

そこで、英国人にももらったニックネーム「TOMMY (トミー)」を名詞にも書くようになりました。お陰で、以前勤務していました企業では、全社員がニックネームのプレート胸に付けるようになりました。周りがここまでくれば、もう恥ずかしいとか照れくささとか無くなるものですね。

どうぞこれからは、気軽に「トミー (TOMMY)」とお声をかけてくださいね。今度お会いするときには、皆さんのニックネームも教えてくださいと嬉しいです。

トミーもお蔭様で、MACC コーディネータ・就任以来早6ヶ月が過ぎました。この間、MACC 会員皆様にご協力をいただき、第1弾メタボ関連4商品、産学連携関連2商品の新商品開発がデビューすることができました。

感謝・感謝でおめでとう、そしてありがとうございました。

今後も、第2弾高齢者ニーズ、第3弾災害と準備中ですぞ。がんばー！

お気軽に  
トミー (TOMMY) と  
お声掛け下さい！



豊泉コーディネータ

## MACCプロジェクトに参加しませんか！

MACCプロジェクトは、プロジェクトの趣旨にご理解をいただける企業であればどなたでも参加していただけます！

### ■参加企業のメリット■

#### 区内だけにとどまらない、企業間・産学官交流や連携の促進

企業間・産学間交流会や産学連携セミナー、シンポジウム等の開催により「産学官の顔の見えるネットワーク」を形成します。また、国が支援する「東葛川口つくば (TX 沿線) ネットワーク支援活動」等と連携していきます。これらの強固なネットワークを活かし、新製品・新技術の開発や受発注機会の拡大等を促進します。

#### ホームページやメルマガ等を活用した、参加企業への情報提供

MACCプロジェクトのイベントや荒川区の施策情報をはじめ、国や東京都、産業支援機関や学術研究機関などのイベント情報、サービス・支援施策などの最新情報を提供していきます。

#### 参加企業の積極的な情報発信

参加企業の技術・製品・強みなどをデータベース化し、ホームページやパンフレットなどで積極的に情報発信を行います。

お申し込みはMACCホームページより↓

荒川区主催 第2回

## MACCプロジェクトフォーラム

テーマ：「MACCプロジェクト本格展開  
～その現状と課題～」

日時：平成19年11月28日(水)  
16:00～19:00

場所：ムーブ町屋 ムーブホール

基調講演：「地域資源を生かした元気企業  
づくり ～東大阪市の事例～」

大阪商業大学エクステンションセンター長  
湖中 齊氏

今年もMACCフォーラムを開催します！皆  
様のご参加をお待ちしております。

※ 詳しくは同封のチラシをご覧ください。

MACC通信第2号は12月発行予定です。

お問い合わせ先 .....

荒川区産業経済部経営支援課

TEL : 03-3803-2311

FAX : 03-3803-2333

E-mail : [macc@city.arakawa.tokyo.jp](mailto:macc@city.arakawa.tokyo.jp)

MACCホームページアドレス

<http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/>

荒川区が進める MACC プロジェクトは、荒川区独特の多彩な産業集積を活かし、区内企業の顔の見えるネットワークの形成を支援し、新たな荒川版産業クラスターの形成を目指しています。

MACC 通信では、MACC プロジェクトの「今」をお伝えしていきます！

## MACCメタボリックシンドローム新商品発表会で 4新商品が名乗りをあげました！

荒川区の新産業・新事業創出を目指すMACC（荒川区モノづくりクラスター）プロジェクトの先導的プロジェクト「健康・福祉関連製品開発」の取り組みが早くも成果をみせ始めました。製品開発の第1弾となる『メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）成果発表会』が平成19年9月26日、荒川区役所産業経済部研修室で開催され、「エクササイズスリッパ」「メタボマイゲージ」「メタボ解消着」「運動強度管理装置」の4新商品が紹介されました。

MACC プロジェクトでは、本格的な高齢化社会を目前に、社会的ニーズの高い高齢者向け「健康・福祉関連製品開発プロジェクト」を先導的プロジェクトに位置づけ、先行事例を創出することにより荒川版クラスターの形成を促進することとしています。その具体的取り組みの第1弾となるのが、メタボリックシンドローム勉強会と新商品開発です。首都大学東京健康福祉学部と MACC 会員企業が産学連携して、その予防に有効な対策となる運動法や食事、器具などの開発を進めているところです。

今回のメタボリックシンドロームの新商品開発に向けては、事前に3回の勉強会が行われました。7月9日に「生活習慣とメタボ」（講師は保健士の石田千絵・首都大学東京助教）、同24日に「メタボと医学」（講師は医師の大下正信・首都大学東京教授）、同31日に「メタボと運動療法」（講師は理学療法士の山田拓実准教授）の講義が行われ、MACC 会員企業で健康関連の新製品開発に意欲ある企業のうち8社が参加しました。

勉強会を経て、さっそく製品づくりに着手。早いピッチで技術開発が進み、9月26日の「メタボリックシンドローム新商品発表会」では4点の新商品が発表されました。これが正式に商品化され、世に出ると、MACC プロジェクトから産まれる初の「荒川発新商品」となります。

当日、首都大学東京健康福祉学部学科長の菊池恵美子教授が「7月に3回の勉強会を開催しましたが、参加し



挨拶する菊池教授



発表会の様子

た企業の反応は早く、短期間に4つの商品が具体化したことに驚いている。意欲的な新商品なので、有望だ。世に出して、様々な意見を聞き入れ、修練してこそ、良いものに仕上がると思う。これからさらに区内企業とキャンパスの教員の連携をひろげたい」と挨拶。荒川区の石原久産業経済部経営支援課長は「新製品を発表する段階

を迎えて、MACC プロジェクトが本格的に動き始めたという実感だ。区内企業の積極的な参加、首都大学東京の支援、そして産学官の橋渡し役を勤めるコーディネータの尽力によるところが大きい。新産業・新事業創出は荒川区政の柱でもあり、目に見える成果があがるよう積極的に支援していく」と述べました。

紹介された新商品製品は、それぞれ他にないオリジナルの製品・商品で、開発に当たった4社がその概要を発表しました。

### エクササイズスリッパ

(株)ストロング：東京都荒川区荒川4 - 1 - 4

この新商品は、一般に普及している「かかとの高いスリッパ」とは逆に、「つま先部分を高くしたスリッパ」です。傾斜角度は10度と16度の2種類。つま先が高いために、適度な負荷がかかり、通常より多くのカロリーを消費するので、メタボ対策に有効。その効果は「履くと背筋が伸びる」「履くとストレッチ効果がある」「履くだけで運動効果がある」など気軽にメタボ対策が図れる点にあります。材質は既存のスリッパの生地を使用。希望小売価格は1,280円(予定)。今後、運動効果の数値化や傾斜角度の工夫、素材の多様化などを検討。同社は現在、主に量販店向けにスリッパを年間1,000万足以上販売しており、その製造・仕入れノウハウを生かして新商品を育てる考えです。



発表する(株)ストロングの平岩氏



試作品のスリッパ

### メタボマイゲージ

(有)板垣製作所：東京都荒川区町屋4 - 19 - 3

この新商品は、メタボ対策に有効な複式呼吸のトレーニング器具。内臓脂肪の増加による肥満やぽっこりお腹の増減をパイプ状の器具で測定・監視します。ぽっこりお腹を減らすには、有酸素運動が有効ですが、実際に継続して実行するのは難しい。そこで、この器具を使って、複式呼吸を促進するのがミソ。材質は軽量のアルミニウム製。サイズは6段階を用意。価格はマイゲージのみで3,500円。カウンター付きは5,000円と8,000円を準備中。同社はNCパイプ丸棒曲げの専門工場です。



試作品のゲージを持つ板垣社長

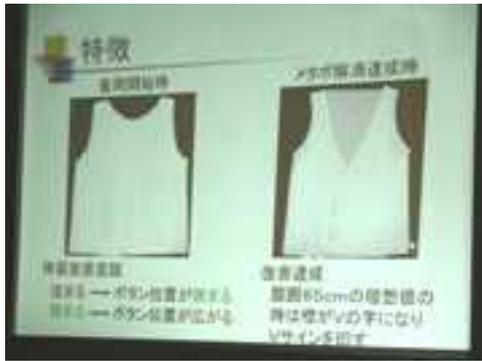
### メタボ解消着

松田金型工業(株)：東京都荒川区西尾久5 - 19 - 1

この新商品は、メタボの改善意識を高める中高年向けの下着です。理想的体型を基準にした下着を着用し、その窮屈度を目安に日常生活からのメタボ対策を促します。体質改善意識が強くなると、同下着のボタン位置は狭まり、改善意識が弱まると、ボタン位置が広がる仕組み。長期間着用する習慣をつけることで、本人自身で健康管理ができます。普通の大人用下着が500~1,000円程度なので、健康グッズ扱いで2,000~3,000円の価格帯を検討中。中高年は体型も変化するため、胸囲の異なるサイズを用意。同社は高性能金型を提供する総合金型システムメーカーです。



発表する松田社長



試作品の肌着

### 運動強度管理装置

コオポラティブ・コンピュータ・コンサルティング(株):  
東京都荒川区西日暮里5-37-5 NSO211

この新商品は、「ころばん体操」に必要な記録をデータ化して、体操の効果を検証する装置です。首都大学東京と荒川区が平成14年度に開発した「ころばん体操」に必要な記録を残し、参加者それぞれの運動に合わせて記録データを解析する装置です。現状では体操の効果を検証する記録システムはありませんが、このシステムはどの運動にも対応できるので、汎用性は極めて高いのが特徴。装置はIT化して、年内に製品化する予定。今後、交通機関で使用されているスイカやパスモなどと連動させて、データを記録すれば、公共の福祉分野での利用も可能という。同社はITを駆使したコンピュータシステム開発・製作会社で、特に福祉系・教育系のシステム開発を得意としています。



発表する三ツ木社長

これらの製品開発をサポートしている豊泉光男・MACCコーディネータは「苦労して考案された“製品”は貴重なものだが、まだ売れる“商品”にはなっていない。開発製品をさらに磨き上げて販売商品にするためには、何を・いくらで・どこで・どのようにして売らなければならないか、戦略が必要。それには<4P>と<3C>が欠かせない」として、以下の要点を明確にするよう指摘しました。

- \* 4つのPとは、Product(製品)、Price(価格)、Place(流通)、Promotion(販売促進)
- \* 3つのCとは、Customer(顧客)、Competitor(競合)、Company(自社)
- \* 明確にすべき事項は、市場に関して「使用者は誰か」「使用シーンは」「使用目的は」「顧客は誰か」「市場規模は」、販売単価、販売数量、製品名、デザイン、商品PR法、販売チャネル。

最後に、首都大学東京の室山丈夫・産学連携コーディネータ(理学博士)が「出足としては感度のいい新商品が登場し、期待が持てる。4つの商品のうち、エクササイズスリッパと運動強度管理装置の2商品は、首都大学東京との産学連携による共同開発で進められ、メタボマイゲージとメタボ解消着の2商品は、勉強会などのディスカッションの中から出てきたアイデア商品です。いずれも地元企業の専門技術を活かして誕生したオリジナル商品だが、これが世に出るには、さらに練り上げる必要がある。今日の発表会を出発点に、新商品を育てるために力を合わせよう」と締め括りました。

なお、この後、参加者による懇親会に移り、発表企業や首都大学東京の先生方のほか、MACCに関連する企業や支援機関などを交えて、商品開発の意見交流が行われました。



豊泉コーディネータ



室山コーディネータ